

## 環境デザイン教育に関する国際教育プログラムの実施方法と課題に関する研究

WAT\_Kobe 2009 での実践を通して

STUDY ON INTERNATIONAL EDUCATION PROGRAM IN ENVIRONMENTAL DESIGN  
Through the implementation of WAT\_Kobe 2009

.....

佐々木 宏幸 デザイン学部環境・建築デザイン学科 准教授  
 川北 健雄 デザイン学部環境・建築デザイン学科 教授  
 小玉 祐一郎 デザイン学部環境・建築デザイン学科 教授  
 久慈 達也 図書館 研究員

Hiroyuki SASAKI Department of Environmental Design, School of Design, Associate Professor  
 Takeo KAWAKITA Department of Environmental Design, School of Design, Professor  
 Yuichiro KODAMA Department of Environmental Design, School of Design, Professor  
 Tatsuya KUJI Library, Researcher

.....

## 要旨

本研究では、2009年11月に神戸市で開催された、ユネスコによる景観と環境デザインに関する国際ワークショップ WAT\_Kobe 2009 の開催準備・実施・フォローアップの経緯を概観するとともに、その参画経験をもとに、国際教育プログラムの実施方法や日本人学生の抱える課題に関して考察し、以下の5点に要約した。

- ① 国際ワークショップにおける課題設定の重要性
- ② 国際ワークショップにおけるグループ編成の重要性
- ③ 参加者各自が得意分野・スキルを持つ重要性
- ④ 外国語によるコミュニケーション能力の重要性
- ⑤ リーダーシップ教育の重要性

今後は、WAT\_Kobe 2009 への参加を通して得た経験を、本学における今後の国際教育プログラムの運営実施のためのノウハウとして蓄積・活用し、世界的教育ネットワークへの参加、将来の海外研究者の招致など、さまざまな国際デザイン教育への参画の機会拡充の契機としてゆく。

## Summary

This study examines the implementation method of international education program and issues of Japanese students based on our experience of the preparation for, implementation of and follow-up on WAT\_Kobe 2009, the international workshop regarding landscape and environmental design by UNESCO held in Kobe in 2009, and summarizes as follows:

- ① Site selection for international workshops is essential.
- ② Composition of working teams for international workshops is significant.
- ③ Acquiring individual strong skills are useful.
- ④ Oral communication skills are indispensable.
- ⑤ Training of leadership is important.

We will accumulate and utilize the experience that we have gained through WAT\_Kobe 2009 as our know-how in the implementation of international workshops and enlarge our opportunities for participating in various international education programs in environmental design.

## 1) 目的

近年の様々な環境問題や社会問題の深刻化と、それらの問題への関心の高まりにより、環境デザインへの期待や要求は、ますます高度化・多様化・複雑化し、世界的視野からの多角的なアプローチと教育が不可欠となっている。本研究では、2009年11月に本学も参加し神戸市で開催された、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）による景観と環境デザインに関する国際ワークショップ WAT\_Kobe 2009 の実践を通して得た経験をもとに、環境デザイン教育分野における国際教育プログラムの実施方法と課題に関する考察を行う。

## 2) WAT\_Kobe 2009 の概要

WAT (Workshop\_atelier/terrain) は、ユネスコの社会科学事業である MOST<sup>1)</sup>プログラムにおいて、モントリオール大学が担当する、景観と環境デザインに関する講座 CUPEUM<sup>2)</sup>の一環として行われる国際ワークショップである。2008年10月に、神戸市がユネスコによるデザイン都市にアジアで初めて認定されたことを受け、WAT\_Kobe 2009 が、2009年11月に神戸市で開催された。WAT\_Kobe 2009 には、海外の CUPEUM ネットワーク加盟国のうちイタリア、カナダ、シリア、中国、チュニジア、モロッコ、レバノンの7カ国、及び日本からは本学と神戸大学の研究者と学生、総勢約60名が参加し、12日間にわたり神戸の景観と環境デザインに関する課題について考え、その成果を発表した。本学は開催都市の環境デザイン系の大学として、神戸市の依頼によりワークショップの準備、実施、運営等に参加し、その中心的役割を果たした。

## 3) WAT\_Kobe 2009 の実施方法

WAT\_Kobe 2009 の実施は、大きく3段階に分けて行われた。第1段階は、ユネスコ及び CUPEUM 担当者の2度の来日を中心として行われたワークショップの準備段階、第2段階は、12日間にわたるワークショップの実施段階、第3段階は、ワークショップ後の提案実践に向けてのユネスコによる神戸市へのフォローアップ段階である。

第1段階の準備段階では、ユネスコと CUPEUM 担当

の研究者、計2名からなる使節団が2度にわたり約1週間の日程で来日し、ワークショップの対象エリアの設定、スケジュール、会場選び等、実施に関する様々な事項に関する入念な打ち合わせを行った。特にワークショップの対象エリアの選定にあたっては、あらかじめ神戸市、本学、神戸大学が用意した素案をもとに、全員で対象エリア候補地の視察と議論を徹底して行い、6箇所の対象エリアの選定と各対象エリアの解決すべき課題の設定を行った。また、ユネスコ、CUPEUM 担当者は、ワークショップに先立ち参加学生のコンピュータスキルやグラフィックスキルの調査を行い、対象エリアの特性も考慮して、12チームの構成メンバーと対象エリアへの割り当てを決定した。

第2段階のワークショップ実施段階は、オリエンテーション・開会式・フィールドワーク・セミナー等からなる2日間のイントロダクション、広域デザインと中間プレゼンテーションからなる4日間のグループ作業前半、地区レベルのデザインと最終プレゼンテーションからなる6日間のグループ作業後半が、神戸元町のまちづくり会館をメイン会場として行われた。さらに、中間プレゼンテーション後には、日本人学生企画による文化交流イベント、最終プレゼンテーション後には、本学吉武ホールやセレンディップギャラリーでの表彰式と閉会式が行われた。

第3段階のフォローアップ段階は、ワークショップでの12グループによる提案を受け、神戸市が今後、実施を検討してゆく計画に関して、市とユネスコによる議論が現在も進められている。



図1) WAT\_Kobe 2009 での作業風景。世界各国から集まった研究者や学生により熱い議論が繰り広げられた。



図2) 本学吉武ホールで行われた WAT\_Kobe 2009 最終プレゼンテーションの様子。本学の学生や市の関係者らが多数出席し、一般にも公開されて行われた。



図3) 本学セレンディップギャラリーで行われた WAT\_Kobe 2009 閉会式とディナー・パーティーの様子。

#### 4) 国際教育プログラムの実施方法と課題に関する考察

WAT\_Kobe 2009 での経験をもとに、国際教育プログラムの実施方法と課題に関する考察を以下にまとめる。

##### ① 国際ワークショップにおける課題設定の重要性

WAT\_Kobe 2009 が大きな成功を収めた要因のひとつとして、神戸市の現状や特性を踏まえながら、入念な議論を経て設定された、ワークショップの対象エリアの選定が挙げられる。六甲の山並みと海により囲まれる神戸市の地形的特徴を考慮し、山裾、ウォーターフロント、そして、それらを結ぶ縦軸に着目し、選定された6つの対象エリアは、いずれも神戸市の今後の都市構造の再構築の上で重要な役割を果たすエリアである。この適切な対象エリアの選

定により、ワークショップでの提案は、今後神戸市が実施を検討するに値する有益な提案となり得た。また、神戸市の都市構造の特性を象徴する、これらの特徴的な対象エリアは、神戸市を初めて訪れる世界各国からの研究者や学生にとっても、比較的短期間でその位置づけや役割を把握できる対象であり、短期間のワークショップにおいて取り組みやすい課題であったと言える。

##### ② 国際ワークショップにおけるグループ編成の重要性

ワークショップ開催前に、ユネスコと CUPEUM 担当者によって行われた学生の専門分野・スキルの調査に基づくチーム編成と、それらのチームへの担当教員の割り当ては、ワークショップの提案の質の向上に貢献した。参加学生の適性を考慮し、可能な限り多様なバックグラウンドとスキルを有する4人のメンバーからなる12チームを編成し、各チーム内での役割分担を可能にし、チーム間の能力の均等化を図ったことにより、多くの最終提案は、質の高い多彩な提案となった。一方、このような試みにもかかわらず、チーム間の能力の不均衡はある程度生じ、提案作成に必要な特定スキルの不足やリーダー不在などの問題を抱えるチームも出現し、初対面の参加者により短期間で行われるワークショップのチーム編成の難しさも経験することとなった。

##### ③ 参加者各自が得意分野・スキルを持つ重要性

初対面のメンバーによりグループ作業を行うワークショップにおいては、グループ内での自らの居場所をいち早く見つけることが、グループ作業に快く参加するために重要である。そのためには、これなら自分が自信を持って担当できると断言できる、明快な得意分野やスキルを持つことが不可欠である。コンピューターグラフィックスキル、3Dグラフィックスキル、手書きのスキル等、様々なスキルが考えられるが、国際ワークショップ参加の際は、このようなスキルを事前に身につけておくことが、各自のワークショップへの積極的な参加にとって重要であると言える。WATにおいても、このようなスキルを有する日本人学生は、比較的早い段階からチームに溶け込んでいた。日本からの参加学生は、自らが自信を持てる得意分野やスキルを持つことの重要性を実感したのではないだろうか。

## ④ 外国語によるコミュニケーション能力の重要性

国際ワークショップに参加するにあたって、参加学生が外国語による十分なコミュニケーション能力を身につけておくことは必須である。世界各国から研究者や学生が参加する国際ワークショップにおいては、英語あるいは参加者の母国語に応じて決定される特定の言語が共通言語として使用される。WAT\_Kobe 2009 においては、英語が共通語として使用された。残念なことに、このような国際ワークショップに参加するたびに、日本人学生のコミュニケーション能力の不足を痛感させられ、WAT\_Kobe 2009 も例外ではなかった。日本人学生の外国語によるコミュニケーション能力の不足は長年の課題であり、今後ますます、国際的な活動の場への参加が増えると考えられる、環境デザイン教育の分野においては、英語を中心とする外国語のコミュニケーション能力の向上は、重要な課題であると言える。

## ⑤ リーダーシップ教育の重要性

国際ワークショップへの参加にあたり、日本人学生が習得すべきもうひとつの重要な能力は、グループ作業におけるリーダーシップであると言える。当然のことながら、少人数のグループ作業においては、グループメンバーによる議論が提案の作成にとって重要な役割を果たす。このような議論を中心とするグループ作業でのリーダーシップの発揮に関しては、日本人学生は欧米の学生に遠く及ばないのが現実である。グループにおける振る舞いや、自己主張の方法に関しては、日本人なりのやり方があって然るべきだが、日本人なりのリーダーシップを身につけた学生がもっと現れて欲しいというのが実感である。日頃の教育において、自己主張の方法や議論のまとめ方のトレーニングを行うのは勿論のこと、やはりリーダーシップの養成に関しては、国際ワークショップに参加する機会を積極的に提供するなどして、学生が実践経験を積むことも不可欠であると言える。

## 5) まとめ

WAT\_Kobe 2009 への参加は、本学から参加した 6 名の大学院生のみならず、我々教員にとっても、国際的な場に

おける環境デザイン教育プログラムの実践を、その準備段階から実施、そしてフォローアップ段階までを一貫して経験する貴重な機会であった。何より本学の学生が、世界の学生の中でも十分競うことのできるいくつかのスキルを有していることを実感する機会を得たことの意味は大きい。また、開催予定都市の都合により 2010 年度の WAT 開催は見送られたものの、本学が WAT\_Kobe 2009 への貢献により、今後も継続的に WAT に協力し参加するようユネスコから要請されたことも、本ワークショップの大きな成果と言える。WAT\_Kobe 2009 への参加を通して得た経験を、本学における今後の国際教育プログラムの運営実施のためのノウハウとして蓄積・活用し、世界的教育ネットワークへの参加、将来の海外研究者の招致など、さまざまな国際デザイン教育への参画の機会拡充の契機としてゆきたい。

註

- 1) Management of Social Transformations の略
- 2) la Chaire UNESCO en paysage et environnement de l'Université de Montréal